

一関市総合計画策定に係る意見交換会

日 時：令和6年9月27日（金）
14時00分～16時00分

場 所：一関市役所2階 大会議室A

次 第

1 開 会

2 あいさつ

3 内 容

- (1) 次期総合計画基本構想「将来像」「基本目標」案について
- (2) パブリックコメントについて
- (3) アンケート調査の追加分析結果について

4 その他

5 閉 会

	ふりがな 氏名
1	あべ としひこ 阿部 利彦
2	いずみ けんじ 泉 賢司
3	いとう たくや 伊藤 拓也
4	いわぶら かずし 岩渕 一司
5	うづの いずみ 宇津野 泉
6	おいかわ えりこ 及川 恵理子
7	おおうち さちこ 大内 早智子
8	おの であら しのぶ 小野寺 忍
9	おやま あまき こ 小山 亜希子
10	かとう さおり 加藤 沙央里
11	こいわ くにひろ 小岩 邦弘
12	さいじょう えみこ 西條 恵美子
13	さいとう ひろみ 齊藤 裕美
14	ささき しょうこ 佐々木 承子
15	さとう ひろこ 佐藤 弘子
16	しょうじ きんし 東海林 訓
17	すがわら みつよ 菅原 美津代
18	すがわら ひでふみ 菅原 秀文
19	ちだ くみこ 千田 久美子
20	ちだ よしき 千田 好記
21	ちば まみこ 千葉 真美子
22	とくだに きくこ 徳谷 喜久子
23	ふじもと せんじ 藤本 千二
24	ふなやま けんじ 船山 賢治
25	ほし よしひろ 星 義弘
26	よしだ なつ 吉田 捺
27	よしだ まさひろ 吉田 正弘

一関市総合計画策定に係る意見交換会

令和6年9月27日開催

市出席者

No.	役 職	氏 名	備 考
1	市長公室長	今野 薫	
2	市長公室次長 兼 政策企画課長	飯村 昌弘	
3	市長公室 政策企画課長補佐 兼 政策推進係長	小山 隆之	
4	市長公室 政策企画課 主任主事	渡辺 苑子	
5	市長公室 政策企画課 主任主事	谷藤 義拓	

株式会社 邑計画事務所

No.	役 職	氏 名	備 考
1	取締役 技術士	及川 一輝	

【「将来像」「基本目標」を考えるにあたっての前提】

- ・審議会及び市民ワークショップでは、市の人口減少と将来推計人口を示し、人口減少は進んでいく状況であることを理解いただいた。
- ・その上で、一関市の現状や課題、理想の姿について議論を重ね、一関市の未来について意見を出していただいた。
- ・審議会では、市のこれまでの取組により、人口減少による影響を少なくし、地域の活力を高めていくためのしごとづくり、ひとづくり、まちづくりを進めていくことを理解いただいた。

将来像

1 ワークショップ部会でのキーワード

キーワード	関連発言
誰もが...すべての人が輝いていると市全体が輝いて見える	・若者だけではなく高齢者も輝いている状態でないと魅力的なまちとはならない。対象は一関市に関わるすべての人。 ・外に向けて、誰もが「一関市の自慢」を言えるようにしたい。
多様性...自分の利益の優先ではなく、ひとりひとりを認め合う社会が前提	・自分も他人も愛して良さに気づくことが大切。 ・多様性を高めることは自己実現できる社会の形成、まちの回復力、復元力につながる。 ・まちの良さに気づく、地域への愛着。
自己実現...自己実現できることが誰もが活躍できるまちにつながる	・やりたいことがないと若者は定着しない。 ・「自己実現」はひとりひとり違う。「自己実現できるまち」はひとりではできない、協働。自己実現したから「笑える」し、「自己実現」を目指しているから「笑える」。
挑戦...挑戦できる環境があることが自己実現へとつながる	・挑戦していること自体が輝いている。 ・「変わる」ことは挑戦すること。安全・安心が「挑戦」の基地になる。
かがやき...自己実現することで輝く(結果) 自己実現を目指して輝く(経過)	・市民が実感していることが重要。 ・まちの印象を決めるのは「ひと」。 ・まちの良さに気づく、地域への愛着。 ・自己実現したから「輝く」し、自己実現を目指しているから「輝く」。
変わり続ける...変わらないためには変わり続けなければならない	・今までどおりにはいかない。挑戦しないと変わらない。変わらないと変わっていく(維持できない)。 ・変わらない一関のために変わりつづける一関。新しいものを取り入れて変わりつづける。ここに生きる人のために変わりつづける。 ・変わらないもの(継承、伝えること)と変えるものの区分けは必要。

「自己実現」できるまち→ひとりひとりの「挑戦」を受け入れ、それを応援するまち→「挑戦することでかがやく」ひとが増えるまち
→「自己実現」できるまちの循環
循環するためには変わり続けなければならない

2 考え方の整理

【対象】

年齢、性別、国籍、住んでいる場所、家族構成、働き方、障がいの有無、思想などに関係なく、一関に関わるすべての人が対象

【目指す状態】

- ▶家庭、仕事、学校などあらゆる部分でそれぞれの輝き、活躍につながり、自己実現できる環境を整える。
- ▶活躍、自己実現の度合いや内容に関わらず、あらゆる人が活躍し、自己実現を達成するために、個々の考え方や生き方を尊重し認め合う。
- ▶自己実現を目指して挑戦する輝いている姿が市全体に広がり、まちが輝いている。
- ▶あらゆる人が一関の良さに気づき、一関を好きでいる。
- ▶好きな一関で安心して暮らしたい、暮らし続けたいと思う。
- ▶好きな一関が変わらず続いていくために、より良いまちを目指し変わり続ける。

3 9/27(金)第4回総合計画審議会に提案する将来像3つの案

- ▶多様な人がそれぞれの立場で活躍できるまちを目指す
- ▶様々なことに挑戦し、自己実現することができるまちを目指す
- ▶ひとやまちを好きになり、ひとが集い住み続けられるまち
- ▶より良いまちを目指し変わり続けるまちを目指す

案A	ひとりひとりに光があたる 挑戦しつづけるまち いちのせき
案B	誰もが輝く 暮らしやすいまちのため変わりつづける いちのせき
案C	私たちは輝く 未来に向けかわりつづけるいちのせき

※他の案のフレーズと組み合わせることも想定。
例) A「ひとりひとりに光があたる」
+ B「暮らしやすいまちのため変わり続ける」

【これまでの将来像とのつながり】

<p>平成18～平成27年度 将来像 人と人、地域と地域が結び合い 未来輝く いちのせき</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの主役は市民一人ひとり ・市民みんなが意欲を持ち、互いの役割を自覚し、自らが主体となってまちづくりを進めることで、人とまちは輝き始める。 ・地域ごとに育まれてきた豊かなコミュニティを尊重し合うことで、地域全体としての一体感の醸成、新たなまちが創造される。 	<p>平成28～令和7年度 将来像 みつけよう育てよう 郷土の宝 いちのち輝く一関</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちの主役は市民一人ひとり ・自然、歴史、文化、市民ひとりひとりや市民ネットワークなどの地域の宝に気づき、まちづくりへ活用することにより、まちに新たな魅力が生まれる。 ・自己実現できるまちを目指すことで、幸せを感じながら暮らし続けられるまちとなる。
---	---

方向性は同じであるが、「ひと」のひとりひとりに、より焦点を当てた将来像へつなげていく

基本目標

4 ワークショップ部会でのキーワード

	キーワード	関連発言
しごと	選択肢 ...自己実現のためには働く場、働き方の選択肢が多いほうが良い。 ・いきがいのある生活のための「しごと」 ・やりがいのある「しごと」 ・営みとしての「しごと」	・「暮らしやすい」にしごとがついてくる。 ・今は遠距離通勤は普通で、働く場所と暮らす場所は必ずしも同じではない。 ・「まち」を維持するための「しごと」もある（保育、教育、観光）。 ・しごとはないわけではなく、人材不足。選択肢を見せられていないということもある。 ・「しごと」が「ひと」を集めるという面もあるが、「ひと」を考へ方の中心に置き「しごと」を考へることも必要
ひと	挑戦 ...挑戦できる環境があることが自己実現へとつながる。やりたいことがないと、若者は定着しない。 愛 ...自分、他人、郷土を愛せる人を育てる	・ひとづくりが土台。 ・やりたいことがないと若者は定着しない。 ・「伝える」は人にしかできない。
まち	にぎわい ...暮らしにはにぎわいが必要 伝える・伝承・承継 ...伝えることは「ひと」にしかできない。 好きだと思えるまち ...今住んでいる人が好きだと思えるまち。	・暮らしたくなるような魅力がまちには必要。 ・どの世代にも暮らしやすいことが大切。 ・「まち」は「ひと」の集合体。 ・まちの良さに気づくこと＝愛。 ・まちの光を見に行くことが観光で、光はひとの暮らし。

5 将来像を踏まえた考え方の整理

人口減少は進んでいく状況であるが、その影響を少なくし、地域の活力を高めていくためのしごとづくり、ひとづくり、まちづくりを進めていく

【将来像で目指すまちの姿】

- ▶多様な人がそれぞれの立場で活躍できるまち
- ▶様々なことに挑戦し、自己実現することができるまち
- ▶ひとやまちを好きになり、ひとが集い住み続けられるまち
- ▶より良いまちとするため変わり続けるまち

【将来像を達成するために必要な考え方】

- ▶あらゆる「ひと」が個々の考え方や生き方を尊重し認め合い、活躍し、自己実現を達成し輝いている状態を目指す。
- ▶輝いている「ひと」があつまり「まち」となることで、市全体が輝く。
- ▶「ひと」とひと、モノ、世界、過去、未来がつながることで、交流、新たな挑戦が生まれ「まち」のにぎわいや暮らしやすさを生み出す。
- ▶にぎわい、暮らしやすいまちには「しごと」が生まれる。「しごと」の選択肢が多いことが、活躍の場、自己実現の場をつくることにつながる。

「ひと」が「まち」を作り、「まち」に「しごと」が生まれる

市民視点 ひとりひとりが輝くことで輝く「まち」になる
 輝く「まち」に「ひと」はあつまり「しごと」は生まれる
 魅力のある「しごと」に輝きたい「ひと」が集まる

⇒「ひと」「まち」「しごと」は循環する

行政視点 「しごと」があるところに「ひと」が集まる
 「ひと」のニーズで「まち」をつくる
 にぎわいのある「まち」の土台となる「しごと」をつくる

企業視点 「しごと」を通じて「ひと」と「まち」を輝かせる
 「ひと」が「しごと」を高める
 輝いている「まち」は次の「しごと」を生み出す

6 9/27(金)第4回総合計画審議会に提案する基本目標3つの案

	いきる（ひと）	くらす・つどう（まち）	はたらく（しごと）
案A	いちのせきで「いきる」 光り輝く "ひとづくり"	いちのせきで「くらす・つどう」 ひととひととがつながる"まちづくり"	いちのせきで「はたらく」 やりたいことが実現できる"しごとづくり"
案B	生きやすいたどりつく	くらしやすい・つどいやすいを目指す	はたらきやすいをかなえる
案C	一関で暮らし、生きていく	一関を愛し、共感する	一関で働き、生活する

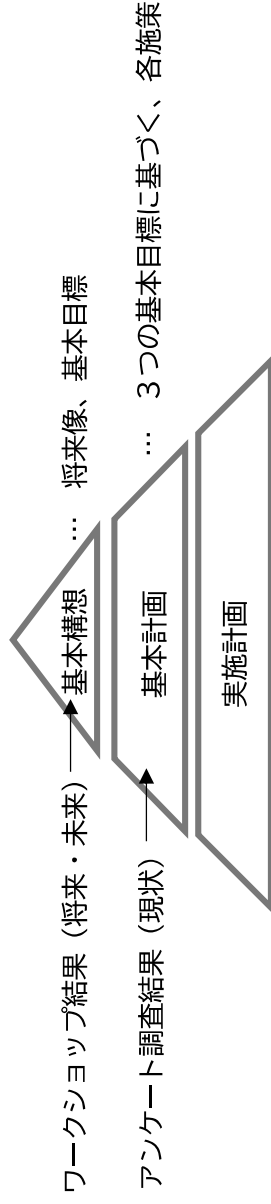
		H26・27		R6・7	
1	ワークショップ	目的	一関市の将来のまちづくりについて「女性」「高校生」の視点からの意見を求める	令和7年6月から8月の実施に向けて、「将来像」「基本目標」を達成するための各施策における現状把握や目指す姿を設定する際に、多様な意見を聴取できるよう、方法を検討していく	
		時期	平成27年5月30日(土)、6月6日(土)	平成27年6月20日(土)	
		対象	女性を中心とした市民30人	高校生	
2	まちづくりスタッフ会議	計画への反映	基本計画、各事業設計の際の参考とする		
		目的	ワークショップ形式で基本計画について意見を求める		
		時期	平成27年4月～7月 計5回		
		対象	委員50人(市民委員35人、市職員委員15人)		
3	タウンミーティング	計画への反映	基本計画策定の際の参考とする		
		目的	前期基本計画策定骨子案への意見を求める		
		時期	平成27年8月29日(土)		
		対象	市民		
4	パブリックコメント	計画への反映	骨子案に対する意見は総合計画審議会に報告し、計画策定の参考とする		
		目的	前期基本計画案に対する市民の意見を求める		
		時期	平成27年11月9日(月)～20日(金)		
		対象	市内に居住または通勤・通学している人		
		計画への反映	答申後の前期基本計画案への反映を想定したが、提出された意見1件は個別施策の提案であったため、計画には反映せず、事業実施の参考とした		

前期基本計画

※令和7年度は以下の策定体制で検討を進めていく
(令和5年度第3回審議会 (R6.3.15開催) で説明した内容)
(1) R7.7.23 (現総合計画審議会委員任期) まで
① まち・ひと・しごと創生有識者会議はこれまでどおり開催
② 総合計画審議会は「総合計画審議会委員27人」の枠組みの中で以下の役割で開催
ア 諮問を受け答申を行う審議会(審議会の全体のイメージ)
イ 審議会委員から具体的な意見をいただく審議会(審議会の分科会、これまでのまちづくりスタッフ会議のイメージ)
職員や各分野に関係のある市民を交えたワークショップも行う。
(2) R7.7.24以降
総合計画審議会と有識者会議を統合し、会議体を
① 総合計画審議会
② まちづくりスタッフ会議(仮称) の2本立てとする

アンケート調査の追加分析結果について

1 アンケート調査結果の総合計画策定への反映イメージ



2 アンケート調査分析の目的・経過と見通し

- (1) 一関の住みやすさを市民がどのように考えているかなどの全般的な項目について、基本構想案の方向性とずれがないかという視点で分析。
 - ▶総合計画審議会やまち・ひと・しごと創生有識者会議で提案いただいた事項を中心に分析を追加しました。改めて、調査結果全体から、主に基本構想案との整合性などをご意見ください。
- (2) すべての項目について基本計画を策定するにあたり、各施策に関する現状の把握などの視点で分析。
 - ▶主に基本計画策定時の各施策の現状分析に反映します。

3 アンケート分析結果 別紙のとおり

【第3回審議会資料「アンケート結果【概要】」からの変更点】

ページ	アンケート種類	問No.	変更区分	変更内容	提案
P 2	市民	問 19、21	追加	デジタルデバインド (情報格差) の状況の詳細をみるため、インターネットの使用状況を年代別に分析	5/10 有識者会議
P 3	市民	問 35	一部追加	一関市の住みやすさについて年代別の分析を追加 住みやすいと感じている人、住みにくいと感じている人、それぞれの理由を記載	8/29 審議会
P 4	市民	問 37	一部追加	市民の考えが市政へ反映されていないと感じているかを年代別に分析	8/30 有識者会議
P 6	中高生	問 6、15	一部追加	将来一関に住みたいと思っているのか、中学生と高校生の傾向をそれぞれ見るため、回答を中学生と高校生に分けた	8/29 審議会
P 7	中高生	問 17	追加	中高生が仕事を考える上で大切にしたいポイントを「市内就職希望者と市外就職希望者」「中学生と高校生」で比較分析	事務局

ページ	アンケート種類	問No.	変更区分	変更内容	提案
P 8	中高生	問 18	追加	<ul style="list-style-type: none"> 中高生が仕事を选ぶ上で大切にしたい条件を「市内就職希望者と市外就職希望者」「中学生と高校生」で比較分析 	事務局
P 9	企業	問 20	追加	<ul style="list-style-type: none"> 事業後継者を探している人の状況を分析するため、代表者の年代別に分析、課題と感じていることを整理 	8/30 有識者会議
P 12	結婚・出産・就労	問 13	一部追加	<ul style="list-style-type: none"> こどもの数に関する状況を詳細に見るため「夫婦の年収別」「初婚年齢別」のこどもの数を分析 	8/29 審議会
P 14	結婚・出産・就労	問 29	一部追加	<ul style="list-style-type: none"> 理想のこどもの数を0人と回答した人が、こどもを持つことについて不安に思っていることを追加 こどもの有無による「こどもを持つことに対する不安」「子育てに対する不安」を分析 	8/29 審議会
P15	転入者	問 8	追加	<ul style="list-style-type: none"> 転入前の都道府県、市町村を整理 	8/30 有識者会議
P18	転出者	問 9		<ul style="list-style-type: none"> 転出先の都道府県、市町村を整理 	8/30 有識者会議
P 20 ~21	市民 中高生	問 33 問 20	追加	<ul style="list-style-type: none"> 中心市街地の活性化に関する市民の考えを詳細に見るため、「18歳以上の市民と中高生」「地域別」で分析 	5/23 審議会 8/29 審議会
P 22	市民 企業	問 8 問 11	追加	<ul style="list-style-type: none"> 職場環境について働いている側と雇用している側の認識を比較するため、「働いている環境への不満や悩み」と「企業が実施している取組」を比較 	5/10 有識者会議
P 23	中高生 企業	問 18 問 11	追加	<ul style="list-style-type: none"> 中高生のキャリア観と企業の取組をひかきくするため「中高生が仕事を选ぶときに大切にしたい条件」と「企業の取組」を比較 	5/10 有識者会議
P 24	市民 中高生	問 22	追加	<ul style="list-style-type: none"> SDGsの普及状況を見るため、市民アンケートと中高生アンケートにおけるSDGsに関する設問に対する回答を分析 	事務局
P 25	市民 中高生 企業 転入者 転出者	問 43 問 23、24 問 24 問 23、25 問 19、21	追加	<ul style="list-style-type: none"> 一関市がどのようなまちなちになればよいと思うか、属性ごとの傾向をみるために関連する設問の回答を分析 	5/10 有識者会議

アンケート分析結果

【資料No.3】
一関市総合計画策定に係る意見交換会
令和6年9月27日(金)

1 調査の概要

(1) 調査実施期間

令和6年6月18日(火)から7月5日(金)まで

(2) 調査方法

郵送により調査票を配布し、郵送又はWEBにより回答を得た

(3) アンケートの種類と回答数

	アンケート種類	調査対象	配布数	抽出方法	回答率			
					※矢印はR1との比較	調査票	WEB	【参考】R1回答率
1	市民アンケート	無作為抽出された18歳以上の市民	4,500人	住民基本台帳から無作為に抽出	↑ 41.5%	33.1%	8.4%	36.3%
2	中高生アンケート	市内の中学3年生、高校2年生	900人	学校毎に標本数・男女内訳を定め、各学校で抽出	↓ 86.3%	19.1%	67.2%	100.0%
3	企業アンケート	岩手県南・宮城県北地域の企業	150社	市町村毎の標本数を定め、商工労働部で抽出	↓ 56.7%	35.3%	21.3%	58.2%
4	結婚・出産・就労に関するアンケート	無作為抽出された20歳から39歳までの市民	1,500人	住民基本台帳から無作為に抽出	↑ 28.4%	14.4%	14.0%	28.1%
5	転入者アンケート	無作為抽出された18歳から49歳までの転入者	500人	住民基本台帳から無作為に抽出	↑ 29.0%	13.8%	15.2%	23.2%
6	転出者アンケート	無作為抽出された18歳から49歳までの転出者	500人	住民基本台帳から無作為に抽出	↑ 23.4%	7.8%	15.6%	20.1%

▶ 回答率は、6アンケート中、4アンケートで令和元年実施時の回答率を上回った。

▶ 回答率が上がった要因は、WEB回答の導入によるものと思われるが、中高生アンケートについては、調査票による回答と比較し、WEB回答の有無を学校側で管理しにくく、回答率が下がった。

2 調査結果【全般的な項目】【単一アンケート内クロス分析】

※P●は「アンケート結果【抜粋版 R6.8.15時点】」の該当ページ

各アンケートの設問のうち、「一関市の住みやすさ」など全般的な項目の分析や単一アンケート内の項目間クロス分析を行った。

(1) 市民アンケート

問19 インターネットに接続できる機器を持っていますか (あてはまるものすべてに○) 単位：% P7

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
スマートフォン	95.7	100.0	100.0	97.6	91.8	85.4	63.3	30.4	81.9
スマートフォン以外の携帯電話	4.3	0.0	1.3	2.4	4.3	3.1	9.1	12.5	4.8
タブレット	39.1	28.7	31.8	37.7	26.7	18.6	8.5	3.6	20.8
パソコン	60.9	57.5	52.2	62.8	58.7	49.5	31.7	23.2	47.4
ゲーム機器	26.1	40.2	39.5	31.6	11.0	2.7	1.4	0.0	12.4
テレビ	69.6	47.1	47.1	49.8	44.5	41.1	32.4	21.4	40.8
その他	0.0	0.0	0.6	0.0	0.7	0.2	0.2	0.0	0.3
持っていない	4.3	0.0	0.0	1.6	3.2	8.1	21.2	51.8	10.4

スマートフォンやパソコンを持っている人の本アンケートへのWEB回答率

年代が上がるに連れ、WEB回答率は下がる

▶機器の普及は進んでいるが、機能を使いきこなせていない層がいると言える。

本アンケートへのWEB回答率	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
スマートフォンを持っている人	68.2	40.2	43.9	39.8	25.6	15.9	7.0	11.8	24.3
パソコンを持っている人	64.3	42.0	52.4	47.1	29.1	22.4	12.2	15.4	30.4

問21 問19で「8. 持っていない」と回答した方にかがいます。インターネットを使わない理由を教えてください。(最もあてはまるもの1つに○) 単位：% P8

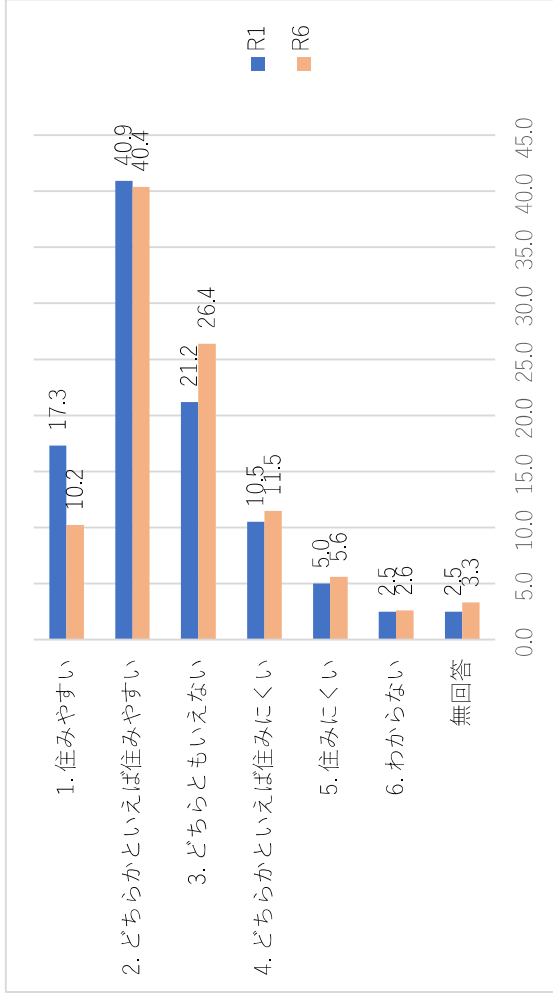
年代別に最も多い回答を着色	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
知識がなく不安だから	100.0	-	-	0.0	0.0	45.7	49.5	32.0	43.1
金銭的負担があるから	0.0	-	-	0.0	37.5	20.0	5.0	24.0	12.6
家族からの制約があるから	0.0	-	-	0.0	0.0	0.0	1.0	4.0	1.7
インターネットを使う必要がないと考えているから	0.0	-	-	50.0	37.5	22.9	29.7	28.0	28.2

インターネットを使わない理由

50代まで「インターネットを使う必要がないと考えているから」が最も多い

60代以降「知識がなく不安だから」が最も多い
▶市民全体のデジタルデバイド解消のためには、60代以降のインターネット知識習得支援が必要と言える。

問 35 あなたは、一関市の住みやすさについて、どのよう感じていますか。(1つに○) 単位：% P16



一関市の住みやすさ

「1.住みやすい」「2.どちらかといえば住みやすい」の合計

R 1 : 58.2%

減少

R 6 : 50.6%

「4.どちらかといえば住みにくい」「5.住みにくい」の合計

R 1 : 15.5%

増加

R 6 : 17.1%

年代別の傾向

「1.住みやすい」「2.どちらかといえば住みやすい」の合計
 …10代が最も高い

「4.どちらかといえば住みにくい」「5.住みにくい」の合計
 …30代が最も高い

住みやすいと感じている人の理由 (自由記述) で多いもの
 「日常生活の利便性が良い」「交通の便が良い」「自然が豊かで、都市と農村のバランスが良い」など
 住みにくいと感じている人の理由 (自由記述) で多いもの
 「日常生活の利便性が悪い」「交通の便が悪い」など

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
住みやすいと感じている割合が多い年代、住みにくいと感じている割合が多い年代を着色									
1.住みやすい	73.9	60.9	52.9	50.2	47.4	48.5	51.5	51.8	50.6
+2.どちらかといえば住みやすい									
3.どちらともいえない	8.7	21.8	22.3	26.3	29.2	27.3	27.5	23.2	26.4
4.どちらかといえば住みにくい	17.4	13.7	22.9				11.8	12.5	17.1
+5.住みにくい									

住みやすいと感じている人の理由 (自由記述)

【10代】 【20代】

- ・生活する上で不便がない
- ・治安が良い
- ・新幹線や高速道路、都心へのアクセスの良さなどの交通の便
- ・住み続けているので愛着がある
- ・自然環境の豊かさ

住みにくいと感じている人の理由 (自由記述)

【30代】

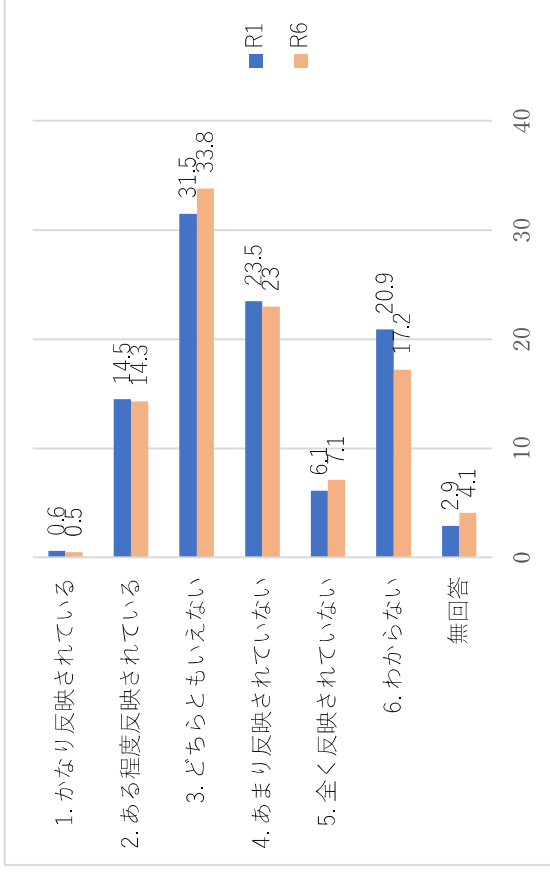
- ・車がないとできない
- ・買い物をする店舗が近くにない
- ・医療機関が不足または遠い
- ・働く場所の少なさ、給料の低さ

【60代】

- ・車がないと不便、交通の便が悪い
- ・買い物や通院等、日常生活が不便
- ・地域に若者が少ない
- ・駅前などの商店街に活気がない

問37 あなたは市民の考えや意見が市政全般にどの程度反映されていると思いますか。(1つに○)

単位：％ P17



年代別の分析

「1. かなり反映されている」「2. ある程度反映されている」の合計…20代と80代以上が高い。
 「4. あまり反映されていない」「5. 反映されていない」の合計…30代と40代が高い。

30代で「4. あまり反映されていない」「5. 全く反映されていない」と回答した人のうち、P16問35で「市の住みやすさを「4. どちらかといえば住みにくい」「5. 住みにくい」と回答した人は48.2%。
 48.2%の人の傾向

…P12問15市からの情報入手媒体

「家族・友人・知人との会話」「入手していない」が他の世代と比べると高い
 と回答した人が多い

P13問17必要な市からの情報
 「健康・福祉・医療・介護」「子育て」と回答した人が多い

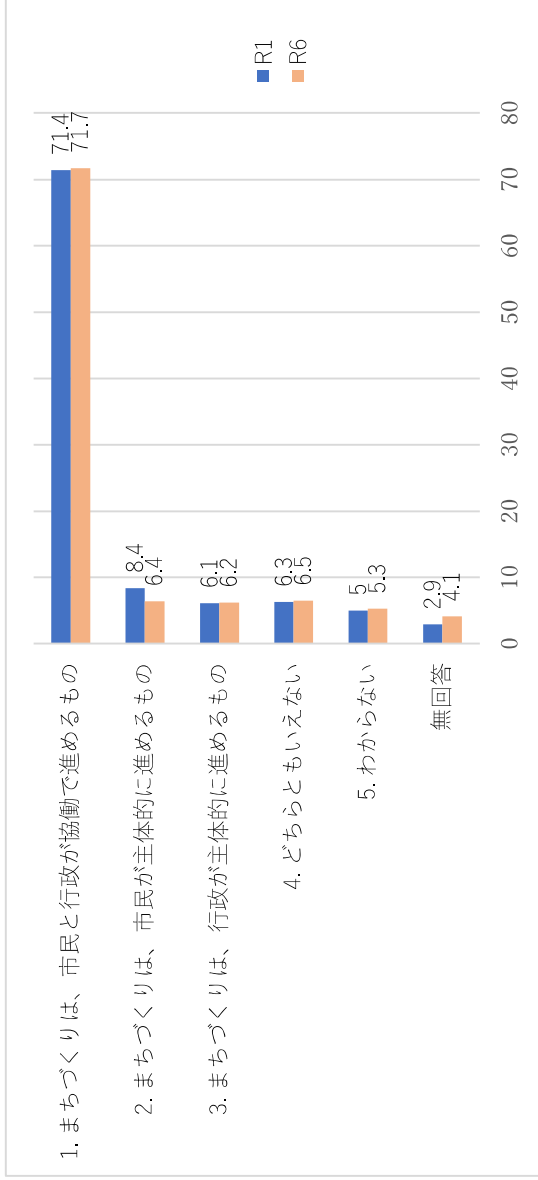
P32問39市民参画のために必要なこと
 アンケート、行政情報の公開
 と回答した人が多い

市民参画のために必要と考えること

P18問39「市政への市民参加をより活発にするために、あなたは市が特にどのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。」に対し、「アンケートなどによりできるだけ数多くの市民の意見を聞く」と回答した人が31.3%と最も多い。

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	計
反映されていると思う割合が多い年代、反映されていないと思う割合が若い年代を着色									
1.かなり反映されている +2.ある程度反映されている	13.0	21.8	8.9	10.5	12.8	14.0	18.4	28.6	14.8
3.どちらともいえない	34.8	28.7	32.5	32.8	34.5	36.5	33.4	23.2	33.7
4.あまり反映されていない +5.全く反映されていない	26.0	27.6	35.6	39.7	30.6	30.4	25.7	23.2	30.2

問38 まちづくりに関する次の意見のうち、あなたの考えに近いのはどれですか。(1つに○) 単位：% P17



「1. まちづくりは市民と行政が協働で進めるもの」の回答割合

R1：71.4%

R6：71.7%

▶ 大きな変化はなく、協働のまちづくりの考え方が市民に根付いてきていると言える。

(2) 中学生アンケート

問6 あなたは将来、一関市に住みたいと思いますか。(1つに○) 単位：% P21

【R6】

	中学生	高校生	計
1. 学校を卒業しても住み続けたい	5.6	7.3	6.4
2. 進学や就職で一度離れるかもしれないが、将来的には住みたい	22.7	20.5	21.6
3. 将来的に住みたくない	34.4	33.1	33.7
4. わからない	37.0	38.8	38.0
無回答	0.3	0.3	0.3

「1. 学校を卒業しても住み続けたい」「2. 進学や就職で一度離れるかもしれないが、将来的には住みたい」の合計
28.0% ▶ 「3. 将来的に住みたくない」を下回っている。
住みたくない理由 (P22 問10) 「希望する職場や職業がない」

R1 : 22.6% 増加
R6 : 50.0%

▶ 就業の問題から一関市を離れようと考えている中高生が増えていることがわかる。

【R1】

あなたが就職後に住みたい場所はどこですか。(1つ選択)

1. 一関市に住みたい	21.2
2. 一関市以外に住みたい	56.2
3. わからない	22.2
無回答	0.3

将来的に一関市に戻ってくる考えはありますか。(1つ選択)

1. 一関市に住みたい	11.3
2. 一関市以外に住みたい	17.3
3. わからない	60.0
無回答	11.3

問15 あなたは学校卒業後、どの地域で働きたいですか。(1つに○) 単位：% P24

【R6】

	中学生	高校生	計
1. 一関市	23.5	22.3	22.8
2. 盛岡市	5.6	7.1	6.4
3. 盛岡市以外の岩手県内市町村	3.1	8.1	5.5
4. 仙台市	26.0	26.8	26.5
5. 仙台市以外の宮城県内市町村	2.6	2.9	2.7
6. 首都圏	26.5	23.6	25.1
7. その他	11.5	9.2	10.3
無回答	1.3	0.0	0.9

【R1】

	回答
1. 一関市	15.2
2. 岩手県内の近隣市町	18.1
3. 宮城県内の近隣市町	2.3
4. 盛岡方面	2.5
5. 仙台方面	25.6
6. 東京方面	25.2
7. その他	10.2
無回答	0.9

地元志向の上昇

「1. 一関市」と回答した人の割合

R1 : 15.2%

R6 : 22.8% 増加

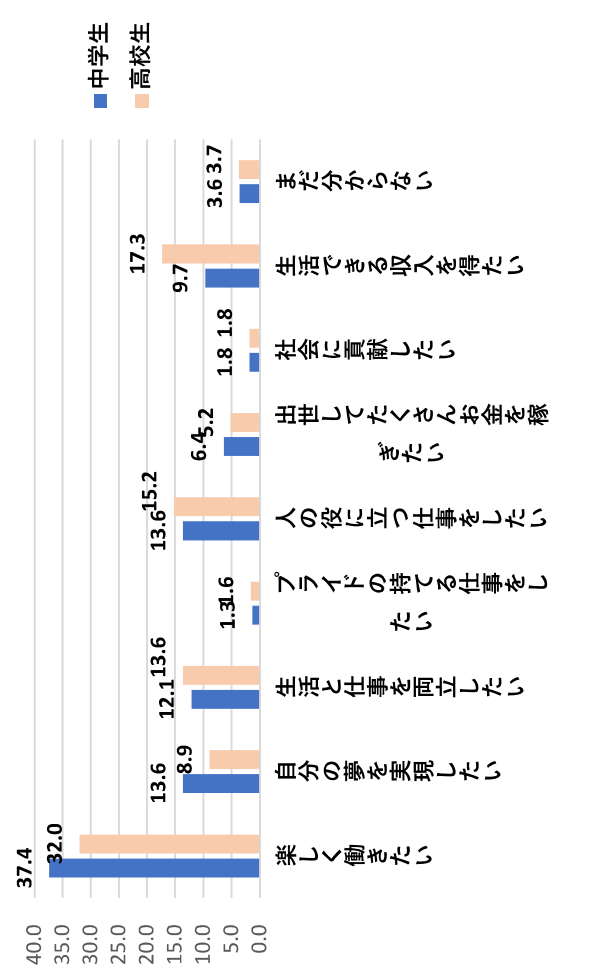
▶ 7.6ポイント上昇しており、依然として「5. 仙台方面」「6. 東京方面」が多いものの、コロナ禍以降続いてきた地元志向が上昇へとつながったと考えられる。

問17 あなたが仕事を考える上で一番大切にしたいポイントはなんですか。(1つに○)

単位：％ P24



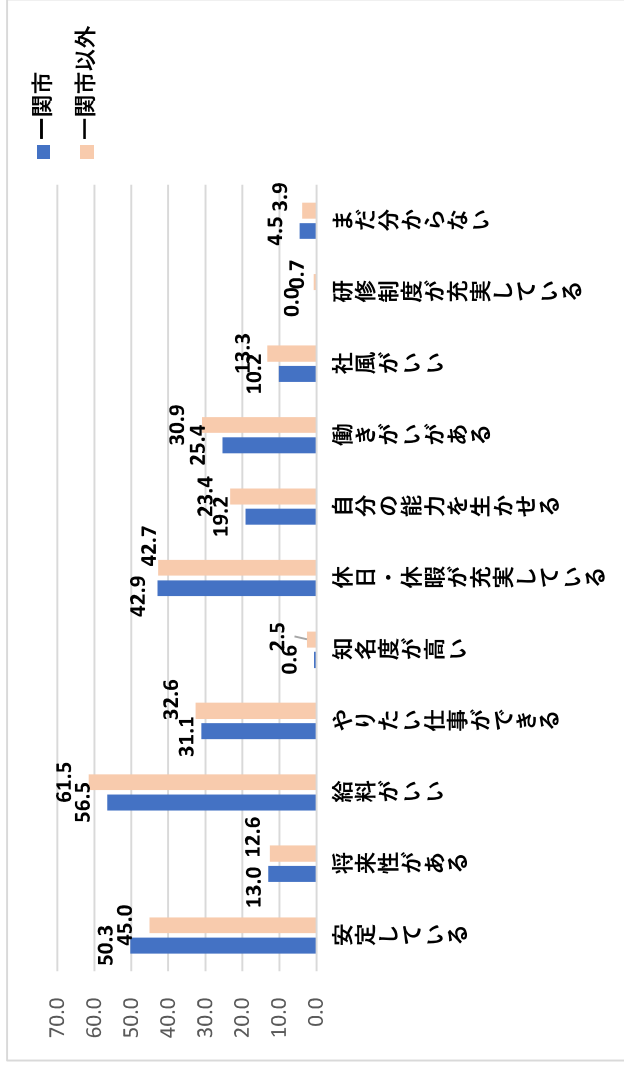
市内就職希望者と市外就職希望者の比較
【差がない項目】
 生活と仕事を両立したい
 人の役に立つ仕事をしたい
 生活できる収入を得たい
【差がある項目】
 楽しく働きたい (市内就職希望者 多い)
 出世してたくさんお金を稼ぎたい(市外就職希望者 多い)
 自分の夢を実現したい(市外就職希望者 多い)



中学生と高校生の比較
【差がない項目】
 プライドの持てる仕事をしたい
 人の役に立つ仕事をしたい
 社会に貢献したい
【差がある項目】
 楽しく働きたい (中学生 多い)
 自分の夢を実現したい (中学生 多い)
 生活できる収入を得たい (高校生 多い)

問18 仕事を選ぶときに大切にしたい条件を教えてください。(あてはまるもの3つまで)

単位：％ P24



市内就職希望者と市外就職希望者の比較

【差がない項目】

やりたい仕事ができる

休日・休暇が充実している

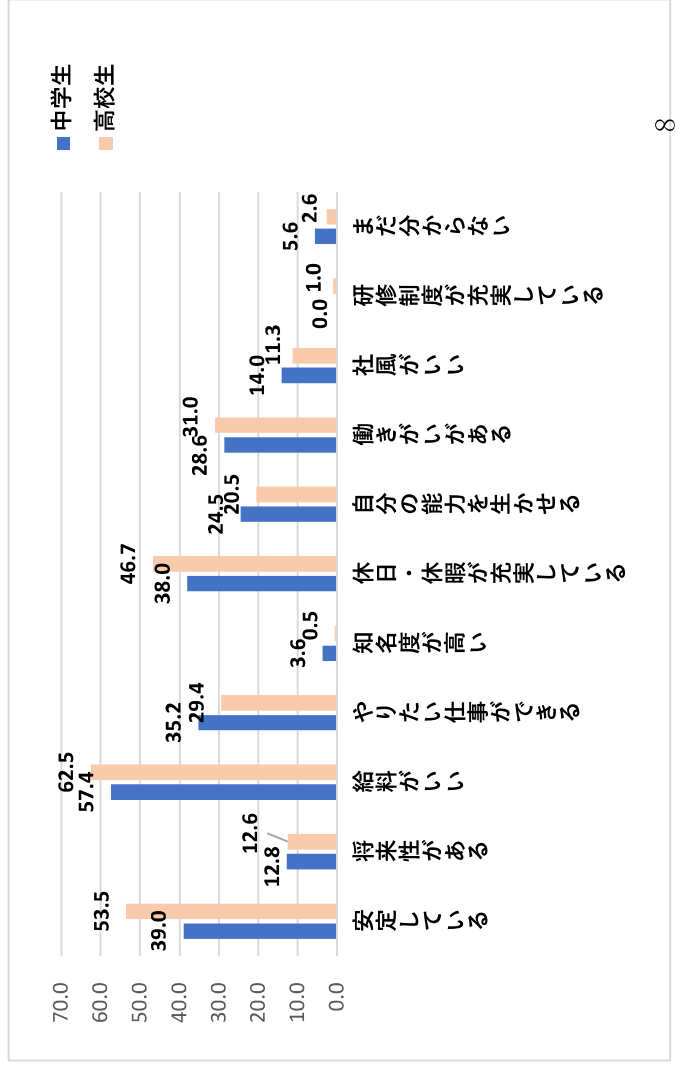
【差がある項目】

安定している (市内就職希望者 多い)

給料がいい (市外就職希望者 多い)

自分の能力を生かせる (市外就職希望者 多い)

働きがいがある (市外就職希望者 多い)



中学生と高校生の比較

【差がない項目】

働きがいがある

【差がある項目】

やりたい仕事ができる (中学生 多い)

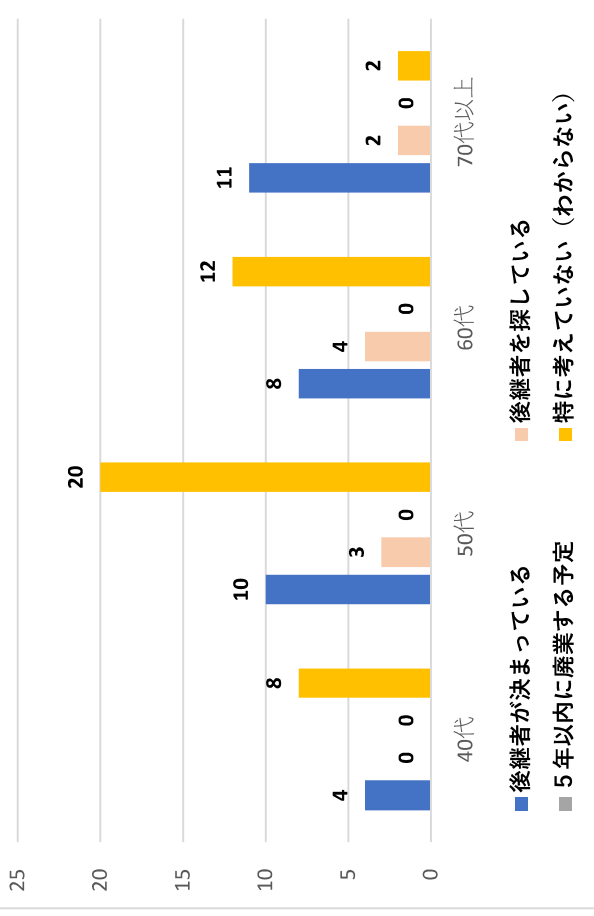
安定している (高校生 多い)

給料がいい (高校生 多い)

休日・休暇が充実している (高校生 多い)

(3) 企業アンケート

問 20 事業の後継者の状況についてお選びください。(1つに○) 単位：人 P37



代表者が60代、70代の企業の状況

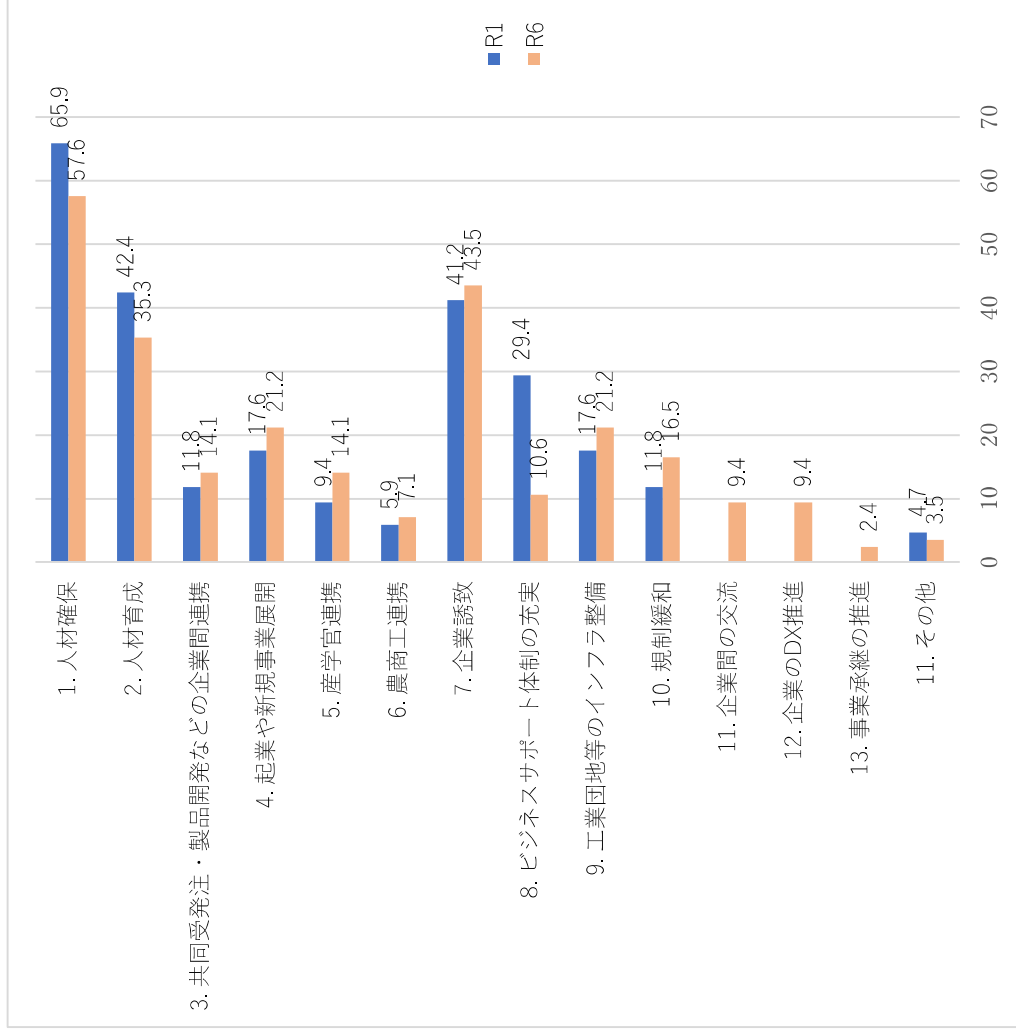
代表者が60代、70代でも「後継者を探している」「特に考えていない(わからない)」企業が複数ある。

「後継者を探している」と回答した企業の経営上の課題

(経営上の課題 (P36 問 18) で課題として回答した主な項目)

人材確保、人材育成、事業承継、新たな販路開拓、売り上げの拡大、コスト削減、デジタル利活用

問 26 一関市の商工業の振興のために必要とお考えのものは、次のうちどれですか。(あてはまるもの3つまで) 単位：% P 38



連携が必要と考える企業の増加

「3. 共同受発注・製品開発などの企業間連携」

R 1 : 11.8% 増加

R 6 : 14.1% 増加

「5. 産学官連携」

R 1 : 9.4% 増加

R 6 : 14.1% 増加

「6. 農商工連携」

R 1 : 5.9% 増加

R 6 : 7.1% 増加

▶ 連携を求める回答が伸びており、自社単独ではなく、行政や他企業と連携が必要と考えている企業が増え
てきていると言える。

企業誘致への期待

「7. 企業誘致」

R 1 : 41.2% 増加

R 6 : 43.5% 増加

「9. 工業団地等のインフラ整備」

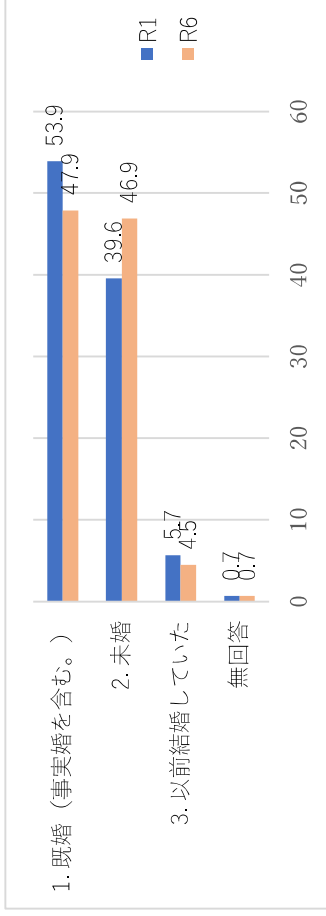
R 1 : 17.6% 増加

R 6 : 21.2% 増加

▶ 市の商工業全体に波及効果を及ぼす企業の誘致への
期待がうかがえる。

(4) 結婚・出産・就労に関するアンケート

問8 あなたは、現在結婚されていますか。(1つに○) 単位：% P43



結婚に対する意欲低下

P48 問21 「あなたは、結婚についてどのようなようにお考えですか」

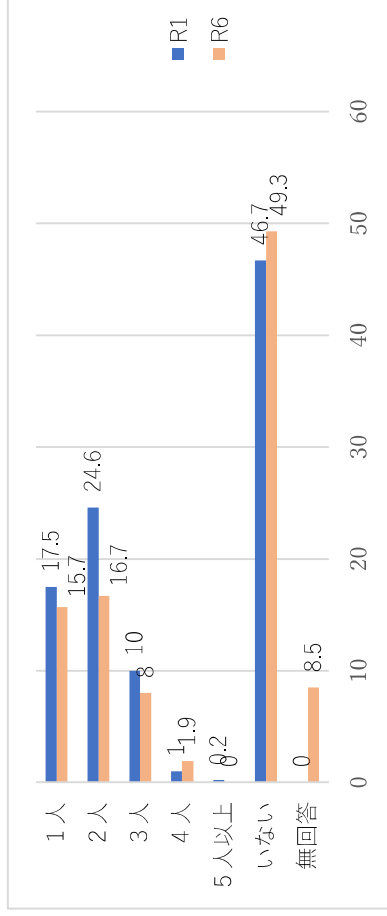
「1. 結婚したい」「2. できれば結婚したい」と回答した人の合計

R1 : 74.2% 減少

R6 : 63.8%

▶ 10.4ポイント減少しており、市民の結婚に対する意欲が低下していると言える。

問 13 お子さんは何人いらっしゃいますか。(同居・別居は問いません) (1つに○) 単位：% P45



「いない」と回答した人の増加

無回答を除く回答者では、こどもがいないと回答した人が半数以上となった。

- ▶ 「いない」と回答した人のうち、P46 問 15 で理想のこどもの数を「0人」と回答した人は19.0%で、約2割の人が今後こどもはいらないと考えていることがわかる。

年代別分析

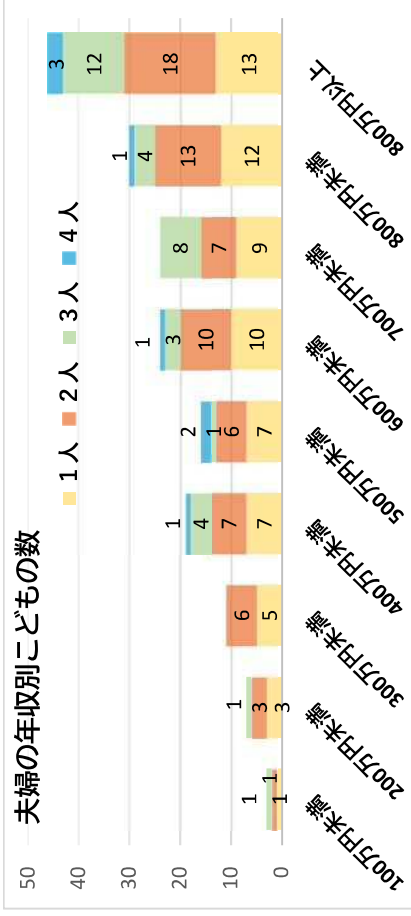
「いない」回答した人の割合

- 20～22 歳：90.0% ※大学卒業の年齢で区切っている
- 23～29 歳：68.8%
- 30～34 歳：41.2%
- 35～39 歳：32.5%

- ▶ 若い層ほど割合が高くなっているが、35～39 歳でもおよそ3人に1人はこどもがいない状況となっている。

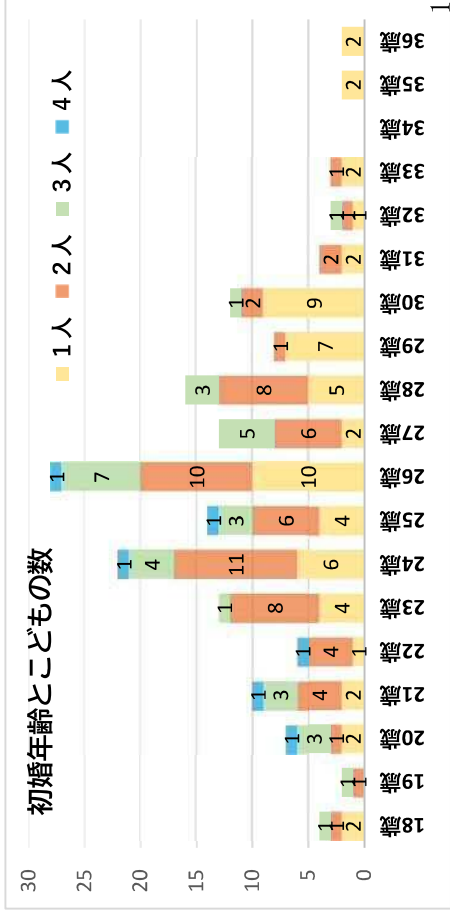
夫婦の年収別こどもの数

年収が上がるほどこども数が多い傾向がある

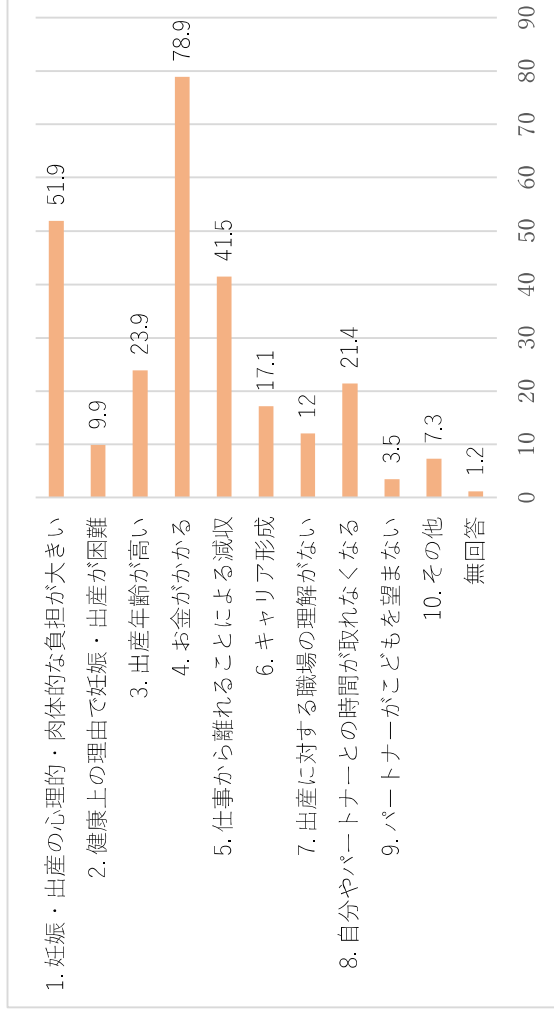


初婚年齢とこどもの数

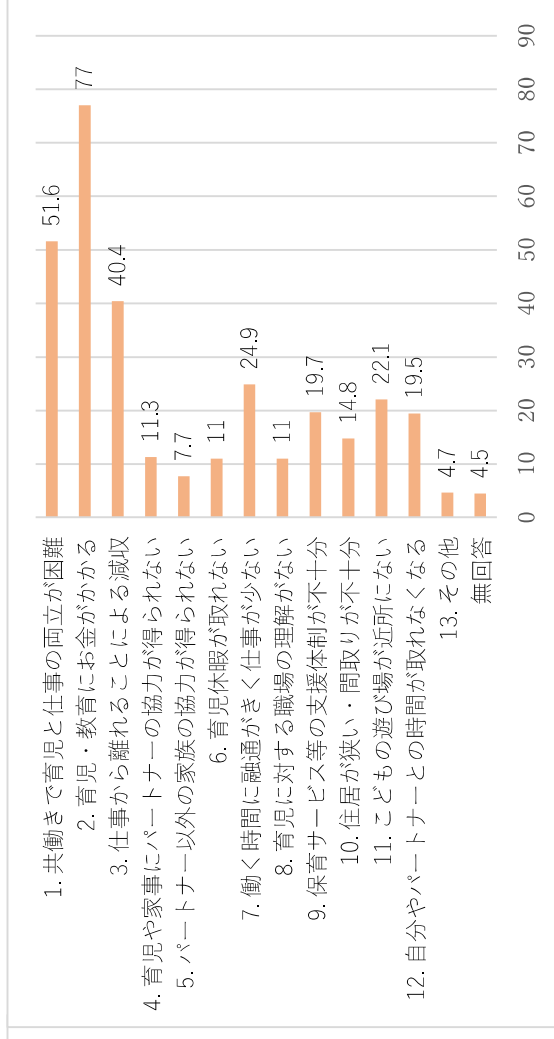
初婚年齢 23～28 歳の層が、こどもが複数人いる傾向がある



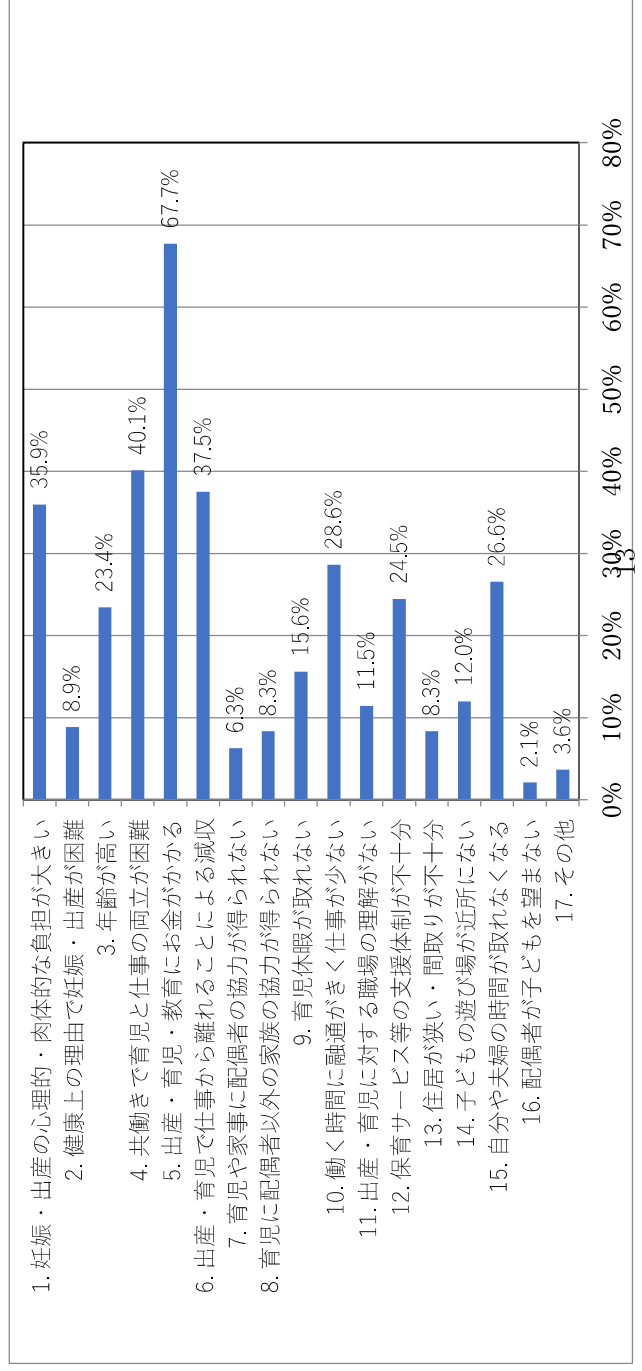
問29 子どもの持つことについて、不安になったこと・なりそうだと感じることはどのようなことです。か。(あてはまるものすべてに○) 単位：％ P50



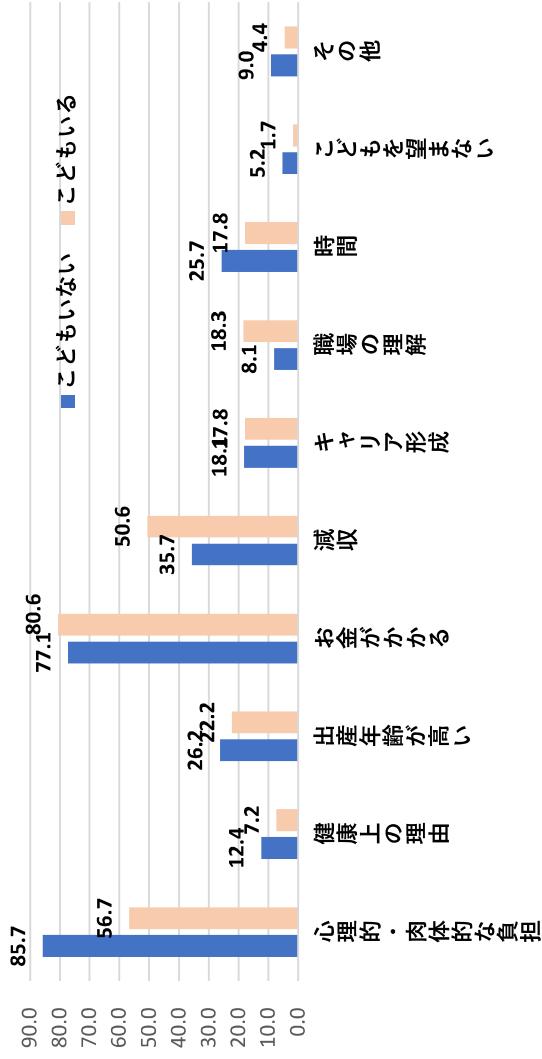
問31 子育てについて、不安になったこと・なりそうだと感じることはどのようなことです。か。(あてはまるものすべてに○) 単位：％ P51



【R1】 出産や子育てについて、支障になりそうだと感じることはどのようなことです。か



子どもを持つことに対する不安と子どもの有無



金銭面の不安

問 29 出産：78.9%

問 31 子育て：77.0%

▶ 出産、子育てともに金銭的な面を不安に思っている人が多いことがわかる。

「1. 共働きで育児と仕事の両立が困難」の増加

R 1：40.1%
増加

R 6：51.6%

▶ 11.5ポイント増加しており、子育てという長い期間における家庭や職場の支援体制がより求められている。

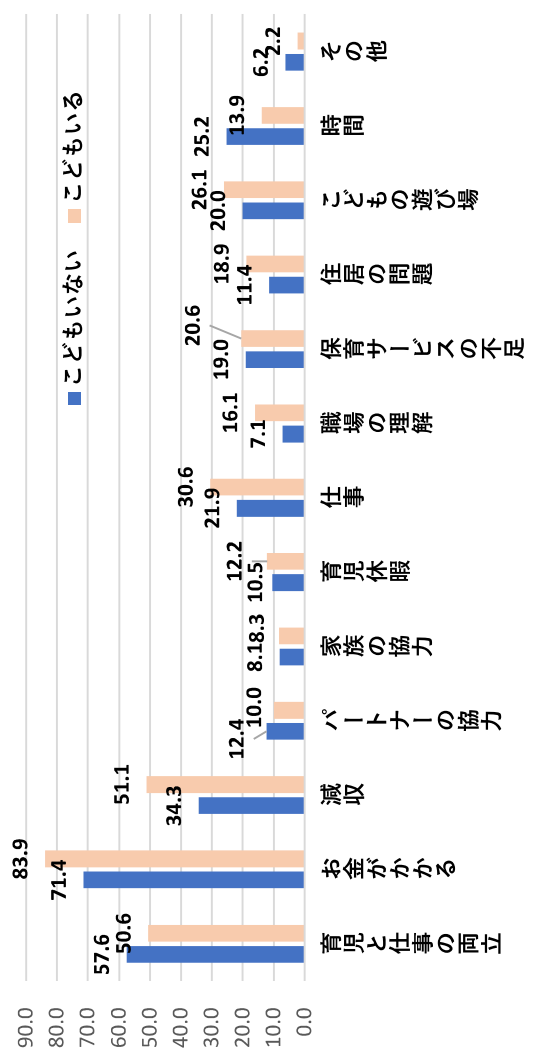
理想のこどもの数を0人と回答した人が不安に思っていること

「4. お金がかかる」

「1. 妊娠・出産の心理的・肉体的な負担が大さい」

「5. 仕事から離れることによる減収」 の順に多い

子育てに対する不安と子どもの有無



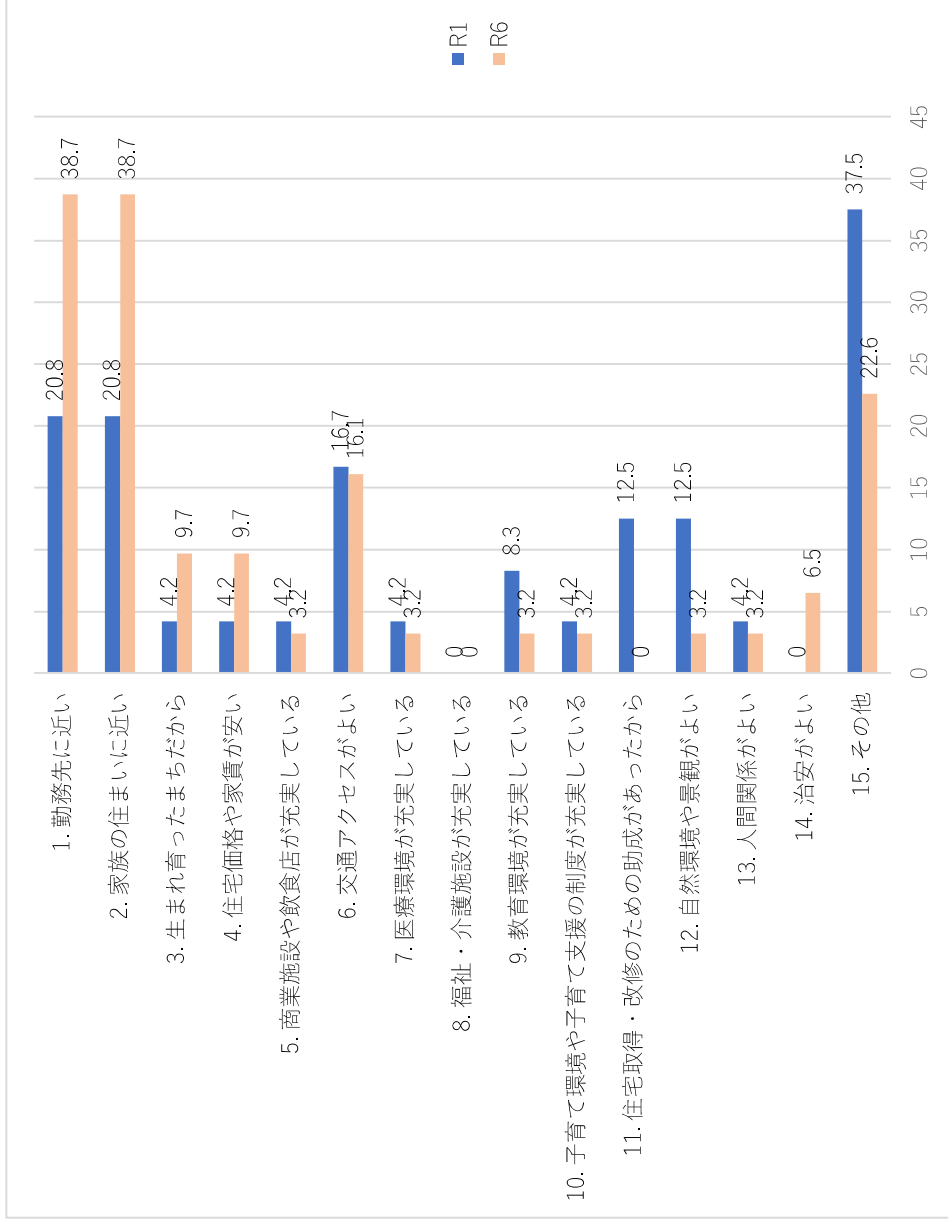
こどもの有無による比較

こどもがいる人は、いない人よりも「お金がかかる」「減収」など経済面を不安に感じている。

こどもがいない人は、いる人よりも「心理的・肉体的な不安」「自分やパートナーとの時間が取れなくなる」「育児と仕事の両立」など現在の生活からの変化を不安に感じている。

(5) 転入者アンケート

問 17 他の市町村と検討した結果、一関市に決めた理由として大きかったものは何ですか。(あてはまるもの3つまで○) 単位：% P 55



仕事、家族の都合による転入の増加

「1. 勤務先に近い」

R 1 : 20.8% 増加

R 6 : 38.7% 増加

「2. 家族の住まいに近い」

R 1 : 20.8% 増加

R 6 : 38.7% 増加

▶ P 54 問 11 の転入の理由も

- ・自分の仕事の都合
- ・家族の仕事の都合
- ・家族と同居、近居のため

が上位3つを占めている。

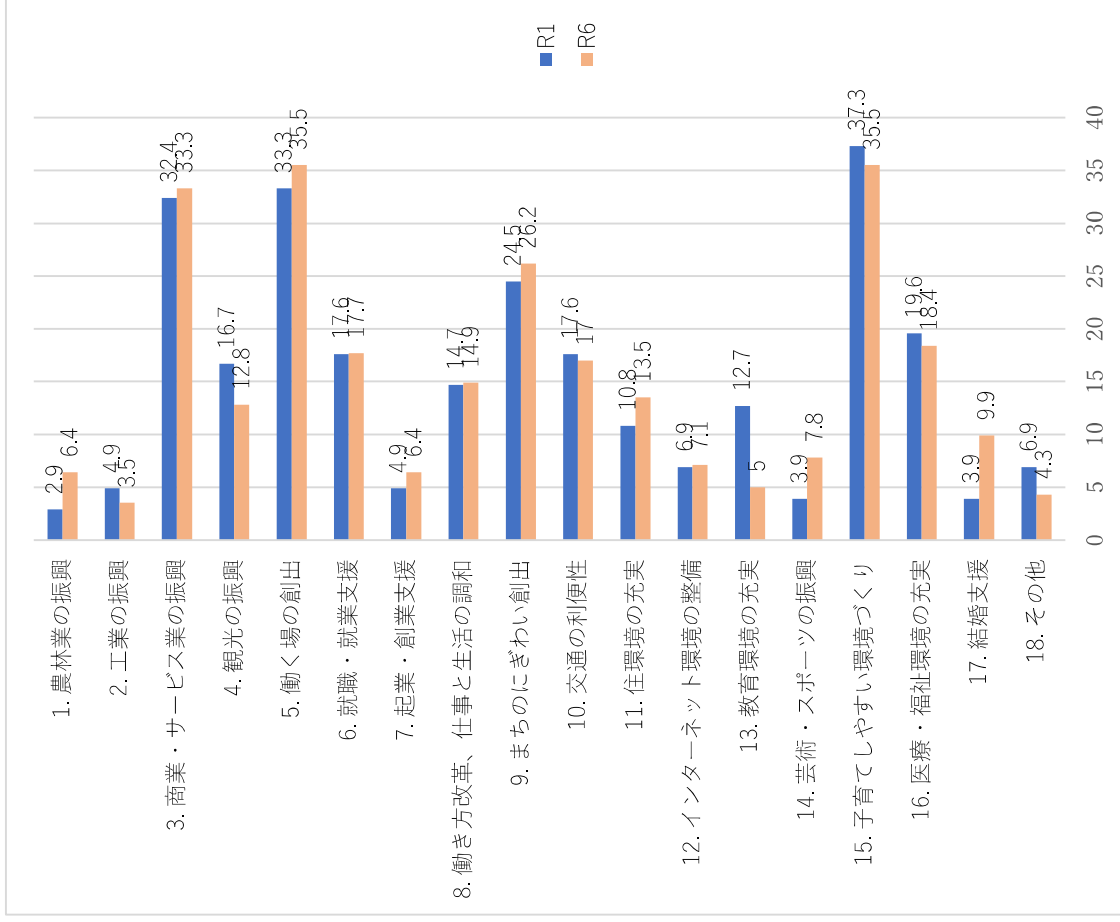
転入の理由「一関市に住みたかったから」

P 54 問 11 で転入の理由を「10.一関市に住みたかったから」と回答した人は、本設問に「4.住宅価格や家賃が安い」「3.生まれ育ったまちだから」と回答している。

転入前の情報収集

P 56 問 21 で転入前に一関市の生活環境に関する情報は得られていたかを聞く設問では、「1.十分得られた」「2.ある程度得られた」で70.3%となっており、転居先を検討する際に必要な情報は得られていたと考えられる。

問 23 一関市が住みたいと思われまちなるために、どのような分野に力を入れればよいと思いますか。(あてはまるもの3つまで○) 単位：% P 59



「5. 働く場の創出」の増加

最も多い回答

R 1：「15. 子育てしやすい環境づくり」

R 6：「15. 子育てしやすい環境づくり」「働く場の創出」

▶ 市外から転入してきた人の視点で見ると、一関市に人を呼び込むために必要なものは、子育て環境の充実と雇用の場の創出であることがわかる。

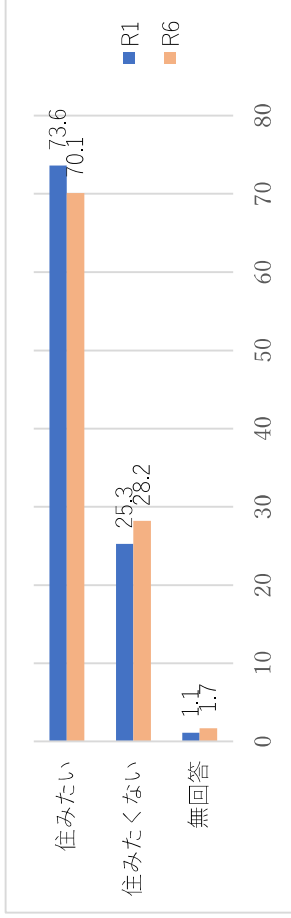
一関市の生活環境の満足度

P 57 問 22 の一関市の生活環境の満足度が高かった項目

「自然環境」「治安・防犯」「日常の買い物の利便さ」「近所・地域の人間関係」「通勤・通学」など、低かった項目は「交通の利便さ」「娯楽・余暇の楽しみ」「収入」「飲食店の多さ」「働く場の多さ」など

(6) 転出者アンケート

問16 機会があれば、もう一度一関市に住みたいですか。(1つに○) 単位：% P64



住みたいと考えている人の理由 (自由記述) で多いもの

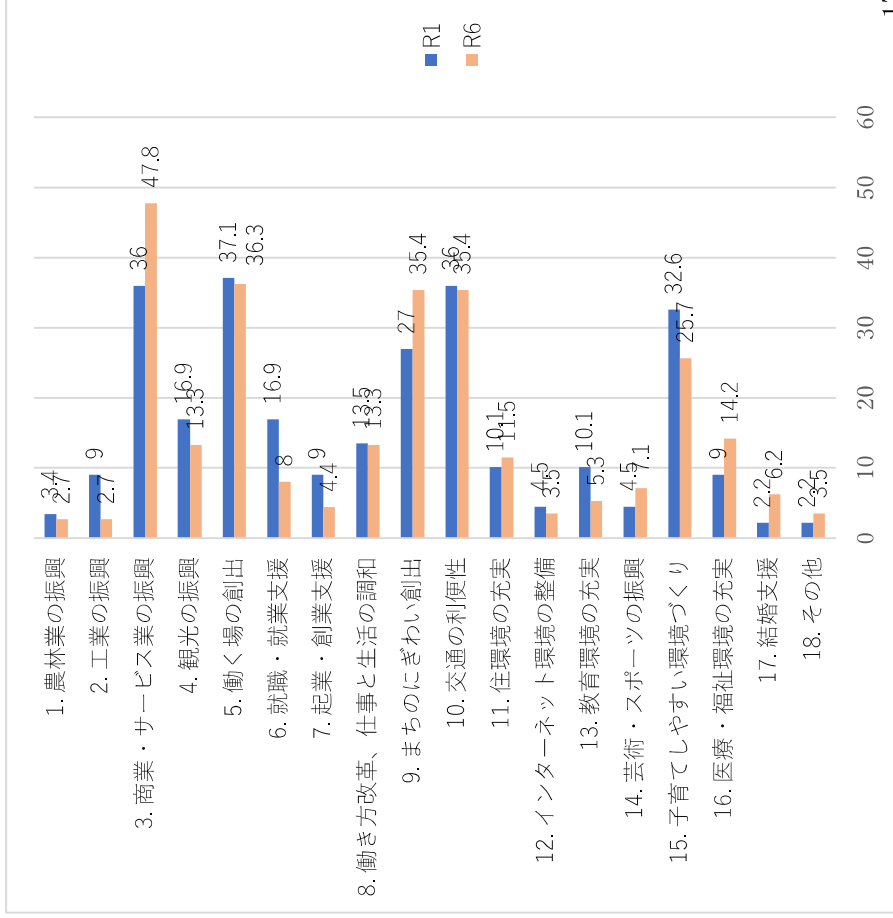
「住み慣れている」「家族との同居を考えている」「交通の利便性が良い」

住みたくないと考えている人の理由 (自由記述) で多いもの

「交通の便が悪い」「通学、就職に不便」「住みたい地域に引っ越すため」

▶ 「交通の便」は、住みたい理由、住みたくない理由のどちらにも含まれており、住んでいる地域や年代によって状況や感じ方が異なることがわかる。

問19 一関市が住みたいと思われまちなくなるためにどのような分野に力を入れればよいと思いますか。(あてはまるもの3つまで○) 単位：% P65



「3. 商業・サービスの振興」の増加

R1：36.0% 増加
R6：47.8%

「9. まちのにぎわい創出」の増加

R1：27.0% 増加
R6：35.4%

▶ 転入者アンケートの同設問においても「商業・サービスの振興」「まちのにぎわい創出」は高く、他市と比較したときに当市の課題と捉えている人が多いことがわかる。

一関市の生活環境の満足度

P63 問15の一関市の生活環境の満足度が高かった項目

「自然環境」「治安・防犯」「近所・地域の人間関係」「暮らしのゆとり」「日常の買い物物の利便さ」など、低かった項目は「働く場の多さ」「娯楽・余暇の楽しさ」「交通の利便さ」「収入」「飲食店の多さ」など。割合の違いはあるものの、転入者アンケートの同設問の結果と同様の結果となっている。

3 調査結果【アンケート間クロス分析】

※P●は「アンケート結果【抜粋版 R6.8.15時点】の該当ページ

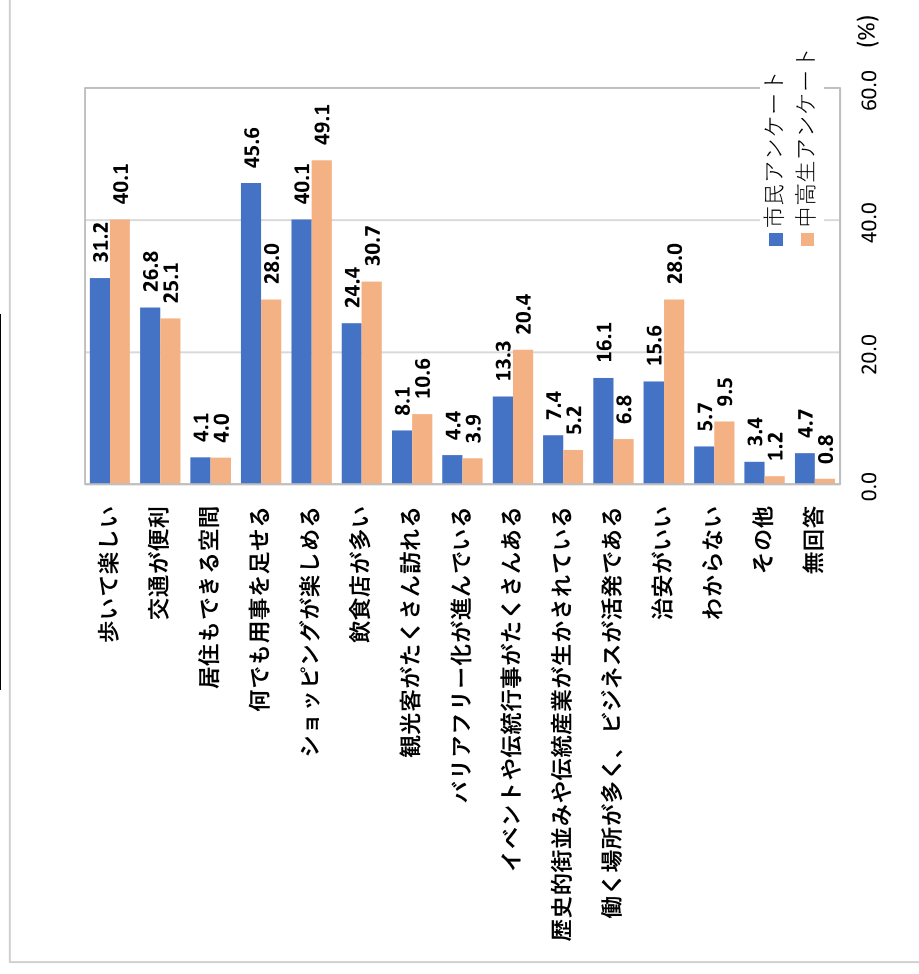
他アンケートとのクロス集計などにより基本計画策定時の基礎資料となるような項目について分析を行った。

(1) 中心市街地の活性化について

■視点1 18歳以上の市民と中高生の考え方の比較

【市民アンケート】問33 中心市街地の商店街（一ノ関駅西側商店街）またはお住まいの地域の商店街がどのような空間になるとよいと思いますか。（あてはまるもの3つまで○） 単位：% P16

【中高生アンケート】問20 中心市街地の商店街（一ノ関駅西側の商店街）またはお住まいの地域の商店街がどのような空間になるとよいと思いますか。（あてはまるもの3つまで○） 単位：% P20



共通して高い項目
「歩いて楽しい」「ショッピングが楽しめる」

回答に差がある項目

項目	市民	中高生
何でも用事が足せる	45.6	17.6ポイント高
働く場所が多く、ビジネスが活発である	16.1	9.3ポイント高

【中高生】

項目	市民	中高生
治安がいい	15.6	12.4ポイント高
飲食店が多い	24.4	9.0ポイント高
歩いて楽しい	31.2	8.9ポイント高
イベントや伝統行事がたくさんある	13.3	7.1ポイント高

▶18歳以上の市民は利便性を、中高生は楽しい場所であることを望んでいる。

■視点2 地域別の比較

問30 中心市街地の商店街（一ノ関駅西側商店街）またはお住まいの地域の商店街にどれくらいの頻度で出かけますか。（1つに○） 単位：％ P15

地域ごとに2番目に多い回答を着色	一関	花泉	大東	千厩	東山	室根	川崎	藤沢	計
ほぼ毎日	5.2	5.4	4.7	4.5	6.7	1.4	3.8	6.9	5.1
週に2～3回	13.9	15.6	17.8	16.1	9.2	13.9	15.4	18.8	14.6
週に1回程度	13.6	15.1	17.2	18.1	18.3	12.5	13.5	13.9	14.5
月に数回	9.4	8.1	9.5	7.7	8.3	4.2	17.3	6.9	9.0
月に1～2回程度	13.4	7.5	13.6	11.0	14.2	15.3	13.5	11.9	12.5
年に数回程度	16.7	16.7	13.0	16.1	14.2	19.4	13.5	13.9	16.0
ほとんど行かない	26.1	26.9	20.1	22.6	25.8	29.2	21.2	25.7	25.2

全地域でほとんど行かないが最も多い

・すべての地域で「ほとんど行かない」が最も多かった。

・2番目に多い回答

一関、花泉、室根…「年に数回程度」

大東、千厩、東山、川崎、藤沢…「週に2～3回」「週に1回」

大東、千厩、東山、川崎、藤沢地域の人が商店街に出かける理由

一関、花泉、室根地域と比較すると、「買い物」「通院」が多い傾向がある。

(2) 職場環境について働いている側と雇用している側の認識の比較

【市民アンケート】問8 あなたは働いている環境に不満や悩みがありますか。(あてはまるものすべてに○) 単位：% P3

※問3 就労状況で「1.正社員・正職員」「2.派遣・嘱託・契約社員」「3.パート・アルバイト」を選択した人(914人)のみ抽出

【企業アンケート】問11 働きやすい職場環境の実現のため、以下の項目について貴社が実施している取組をお選びください。(あてはまるものすべてに○)

単位：% P34

	働いている環境 への不満、悩み 比率(%)	働いている環境 への不満、悩み 比率(%)	企業が実施し ている取組み	
			比率(%)	比率(%)
1	20.7	80.0	有給休暇取得の推進	80.0
2	14.4	63.5	残業時間の削減	63.5
3	15.3	21.2	フレックス勤務など多様な勤務時間の導入	21.2
4	15.4	15.3	在宅勤務、時短勤務など多様な働き方の推進	15.3
5	20.6	34.1	社員のメンタルヘルスのサポート	34.1
6	15.9	25.9	業務プロセスの見直しによる業務削減	25.9
7	11.3	37.6	システムやAIの導入などによる業務の自動化、業務削減	37.6
8	4.6	3.5	アウトソーシングによる業務削減	3.5
9	8.6	21.2	女性管理職登用など女性活躍の推進	21.2
10	20.5	50.6	社員のスキルアップ支援	50.6
11	7.9	21.2	障がいがある方の雇用の推進	21.2
12	9.6	49.4	定年引上げなど高齢者の雇用の推進	49.4
13	5.3	18.8	外国籍や留学生の雇用の推進	18.8
14	18.1	10.6	非正規・正規社員の格差解消	10.6
15	56.1	55.3	賃上げ	55.3
16	20.2	42.4	ハラスメント(セクハラ・パワハラなど)対策	42.4

認識の差

「1. 有給休暇取得の推進」「2. 残業時間の削減」「10. 社員のスキルアップ支援」

…企業は5割以上の高い取組率であったが、労働者の14～20%が不満と感じている。

「5. 社員のメンタルヘルスのサポート」「16. ハラスメント対策」

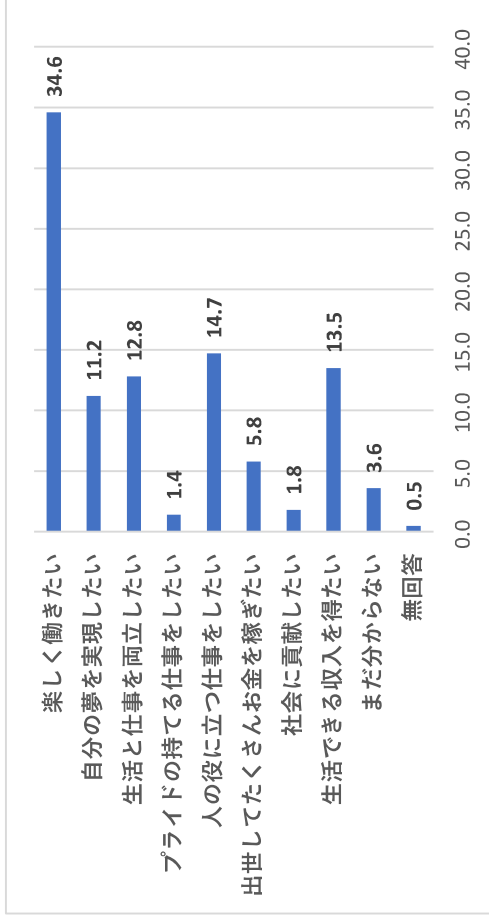
…労働者の約20%が不満を感じているが、企業の取組は3～4割と更なる取組が求められている。

「15. 賃上げ」

…労働者の約56%が「給料が安い」という不満を持っている。企業側でも約半数は取り組んでいると回答しているが、不満の解消には至っていない。

(3) 中高生のキャリア観と企業の取組の比較

【中高生アンケート】問 18 仕事を選ぶときに大切にしたい条件を教えてください。(あてはまるもの3つまで○) 単位：% P25



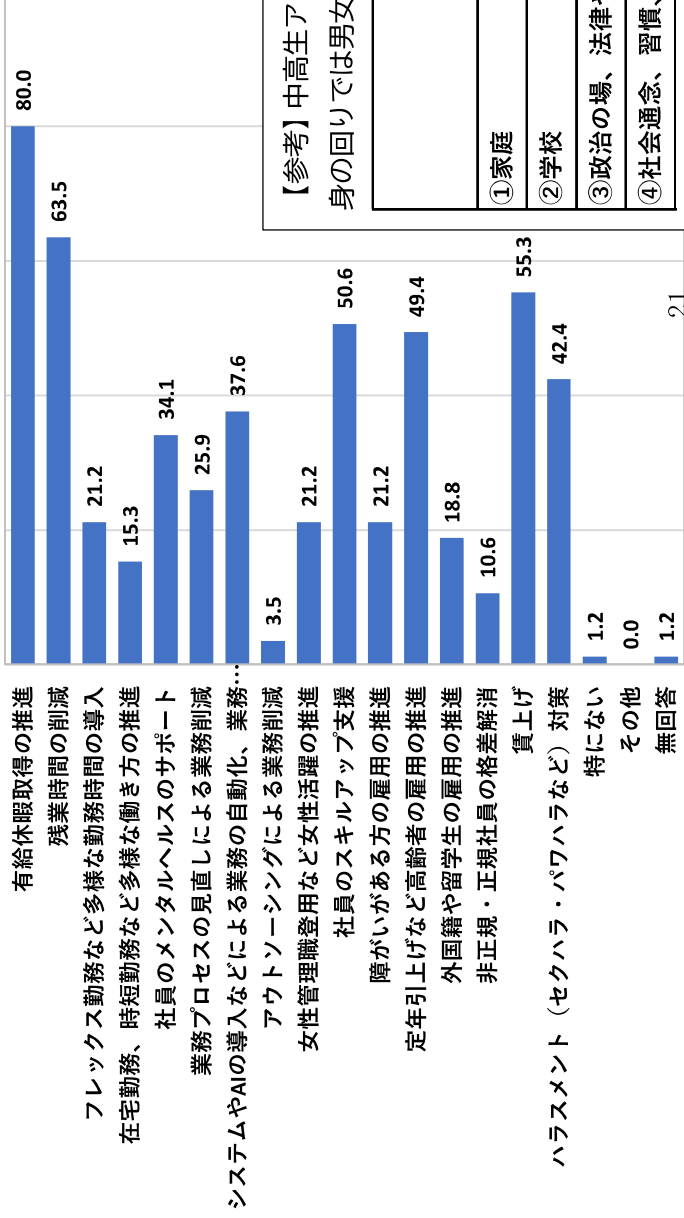
ワークライフバランス

- ・「生活と仕事を両立したい」と考えている中高生 12.8%
- ・「有給休暇取得の推進」「残業時間の削減」に取組んでいる企業は多い
- ・「フレックス勤務など多様な勤務時間の導入」「在宅勤務、時短勤務など多様な働き方の推進」に取り組んでいる企業の割合は低い
- ▶多様な勤務時間や働き方の推進が必要といえる。

女性活躍の推進

- ・「人の役に立ちたい」「働きがいがある」「やりたい仕事ができる」を選択した中高生の割合は男性よりも女性のほうが高い
- ・「女性管理職登用など女性活躍の推進」に取り組んでいる企業は約2割
- ▶女性活躍の取組推進が必要といえる。

【企業アンケート】問 11 働きやすい職場環境の実現のため、以下の項目について貴社が実施している取組をお選びください。(あてはまるものすべてに○) 単位：% P34



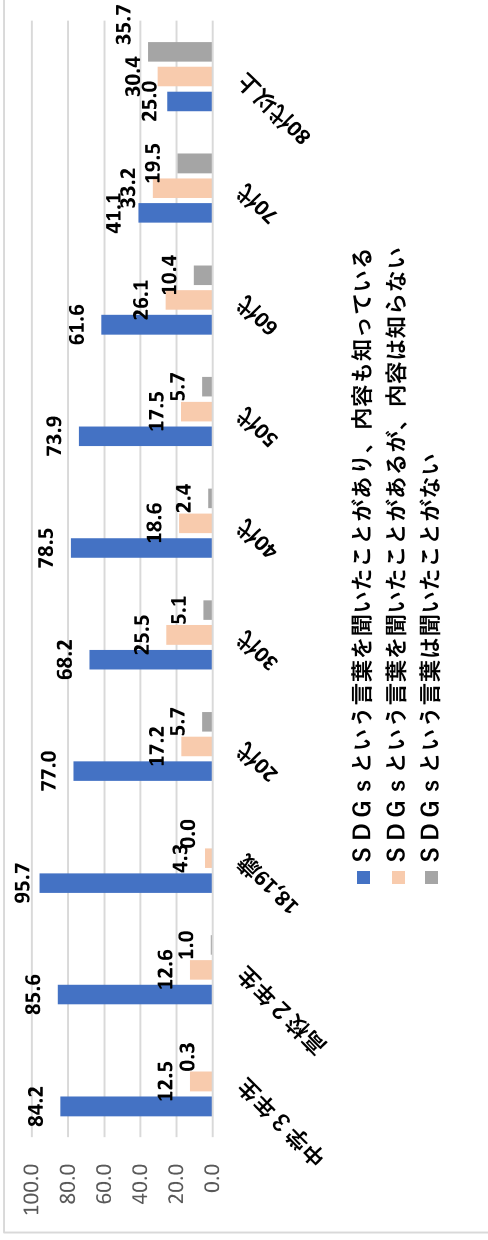
【参考】中高生アンケート「問 22 次にあげる各場面において、あなたの身の回りでは男女平等になっていると思いますか」 単位：%

	思う	やや思う	どちらともいえない	あまり思う	思わない
①家庭	49.4	18	17.8	7.9	5.5
②学校	35.3	29	18.4	10.7	4.9
③政治の場、法律や制度上	20.5	20.7	37.2	13.8	6.4
④社会通念、習慣、しきたり	22.7	19.9	35.4	14.9	5.7

(4) SDGs

【市民アンケート】問41 SDGsという言葉を知っていますか。(1つに○) 単位% P18

【中高生アンケート】問25 SDGsという言葉を知っていますか。(1つに○) 単位% P29

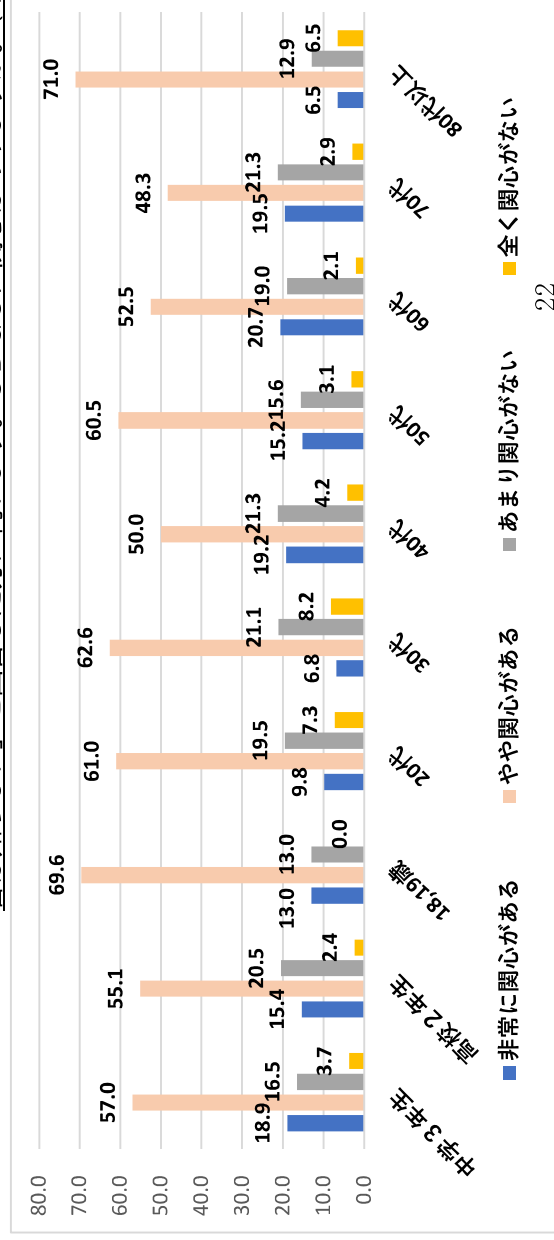


SDGsの浸透率

「SDGsという言葉を知っている」「SDGsという言葉を知りません」の合計
 ...すべての年代において50%を超えている。

【市民アンケート】問42 問41で「1. SDGsという言葉を知っています」「2. SDGsという言葉を知りません」と回答した方に伺います。SDGsに関心はありますか。(1つに○) 単位% P19

【中高生アンケート】問26 問25で「1. SDGsという言葉を知っています」「2. SDGsという言葉を知りません」と回答した方に伺います。SDGsに関心はありますか。(1つに○) 単位% P30



SDGsへの関心度

すべての年代において「非常に興味がある」「やや興味がある」と回答した人は5割を超えている。
 特に80代以上の関心度が高い。

(5) 一関市がどのようなまちになればよいと思うか

【市民アンケート】 問 43 あなたは将来、一関市がどのようなまちになればよいと思いますか。ご意見やご提案がございましたら自由にお書きください。
【中高生アンケート】 問 23 将来、どのようなまちに住みたいと思う人が多くなると思えますか。(あてはまるもの3つまで○)

問 24 あなたは将来、一関市がどのようなまちになればよいと思えますか。ご意見やご提案があれば自由にお書きください。

【企業アンケート】 問 24 一関市は今後、どういう分野に力を入れていくべきとお考えですか。(あてはまるもの3つまで○)

【転入者アンケート】 問 23 一関市に住みたいと思われるまちになるために、どのような分野に力を入れればよいと思えますか。(あてはまるもの3つまで○)

○)

問 25 転入者を増やすために一関市がどのようなまちになったらよいか、あなたのお考えやご提案などがありましたら、お書きください。

い。

【転出者アンケート】 問 19 一関市に住みたいと思われるまちになるためにどのような分野に力を入れればよいと思えますか。(あてはまるもの3つまで○)

問 21 転入者を増やすために一関市がどのようなまちになったらよいか、あなたのお考えやご提案などがありましたら、お書きください。

い。

市民アンケート

「地域づくり活動」に関する記載が最も多く、次いで「子育て、教育」、「雇用」、「移住定住、関係人口、結婚支援」の充実を求める意見が多い。

合併した旧市町村単位でのまちや山間部の活性化、活気があり、子どもが増えて若者が市内で就労できる、また安心して暮らせるという言葉が多くみられた。

中高生アンケート

「買い物や飲食を楽しむことができ、まちににぎわいがある」「自分の趣味、娯楽やスポーツを楽しめる機会や環境がある」「様々な種類の仕事や安定して働くことのできる仕事がある」の充実を求める意見が多い。

自由記述では、賑わい創出や娯楽の提供に関連する意見が多かった。

企業アンケート

「子育て環境の充実」「製造業・流通業などの産業集積」「商業・観光・サービス業の振興」「働く場の確保」に力を入れていくべきという意見が多い。

転入者アンケート

「子育てしやすい環境づくり」「働く場の創出」「商業・サービス業の振興」の充実を求める意見が多い。

自由記述では、「商業、サービス業」に関する記載が最も多く、子育て支援の充実のほか、子どもが遊ぶための場所へのニーズが多くみられた。

転出者アンケート

「商業・サービス業の振興」「働く場の創出」「まちのにぎわい創出」「交通の利便性」の充実を求める意見が多い。

自由記述では、「子育て、教育」、「住環境・景観」に関する記載が最も多く、経済的な支援のほか、教育環境や子育て世代の住環境、医療福祉に対する意見が多かった。

令和6年度における審議会開催等のスケジュールについて

		R6						R7					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
全体	<p>■4/26 第1回 ・一関市総合計画策定基本方針 ・令和6年度における審議会開催等のスケジュール ・市民ワークショップ内容 ・アンケート調査項目</p>												
審議会(全体会)													
審議会(部会)													
アンケート													
ワークショップ													
その他													

10月後半～11月前半
パブリックコメント

10/17 第5回
・基本構想素案
・主な指標令和5年度実績

11/27 第6回
・基本構想素案
・基本構想答申案
・前期基本計画体系案

第7回
・基本構想答申
・前期基本計画体系案

第8回
・前期基本計画

基本構想議決

9/27 第4回
・基本構想「将来像」「基本構想」案
・パブリックコメントについて
・アンケート調査追加分析結果

9/3 ワーク
ワークショップ等の結果から「将来像」「基本目標」の検討

分析結果を前期基本計画策定における
・現状分析
・目指す姿の設定に活用

結果を基本構想の
・将来像
・基本目標へ反映

7/5 回答締切
→集計作業

7/20 ワークショップ開催
→結果取りまとめ作業

6/18 発送

8/9 アンケート部会にアンケート取りまとめ結果を報告
8/20 アンケート分析結果を報告し意見提出依頼(9/2締切)

第3回審議会、アンケート部会などで結果に対する意見聴取

第2回審議会「アンケート部会」「ワークショップ部会」を設けることについて了承

部会への参加意向調査

5/23 第2回
・市民ワークショップ内容
・アンケート調査項目

第3回審議会
→結果取りまとめ作業

7/20 ワークショップ開催
→結果取りまとめ作業

第3回審議会、アンケート部会などで結果に対する意見聴取

第3回審議会、アンケート部会などで結果に対する意見聴取

第3回審議会、アンケート部会などで結果に対する意見聴取

第3回審議会、アンケート部会などで結果に対する意見聴取

第3回審議会、アンケート部会などで結果に対する意見聴取

第3回審議会、アンケート部会などで結果に対する意見聴取

第3回審議会、アンケート部会などで結果に対する意見聴取